大草谷津田いきものの里自然観察ガイド

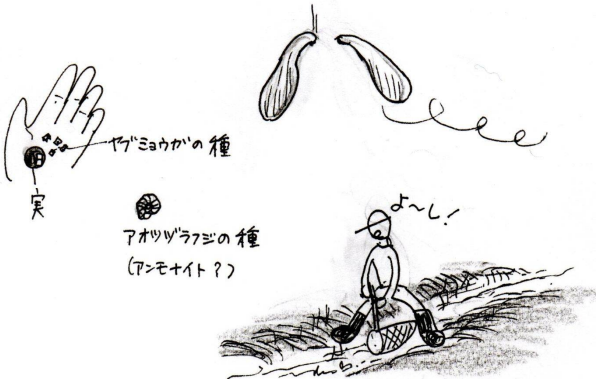
旅するたね

田井中 信子（千葉市）

日　時：2009 年 11 月 15 日（日）10：30～12：00
参加者：10 名（大人８名、子ども２名）
担当指導員：田井中信子・岡田敬子

大草いきものの里の概要と注意点を初めに説明した。今回は、動けない植物が、どのようにして分布を広げてゆくか、その手段として実、種をどう散布するか等を植物を採集し観察、分類、実験を行った。

コースとして、いきなり田圃空間に出るより雑木林を通った方が良いと思い、めじろんばから下ノ畑へ行き田圃側道でまとめをした。採集した木の実、草の実を散布別（風、水、動物、自力）に分類した。多かったのは鳥散布（ムラサキシキブ、ガマズミ他）、次いで風散布（モミジ、マツ他）で、いかに鳥が種の散布に貢献しているかが解った。また、珍しい果実の標本を担当者が用意し、果実の中を割って種がどう納まっているか、１個のように見えても中には細かい種がいくつも入っていたり（ヤブミョウガ）、形の面白さ（アオツヅラフジ）等を驚きながら観察した。



最後に風散布の代表である楓を模試した物を折り紙で作り、皆で一斉に空に放ち、滞空時間の長さ、回転の美しさ、飛んだ距離を競い合った。水に浮かぶ実を、農道を挟んで流れの上流から下流へ次々流し、農道のトンネルを抜けて流れてくる様子を皆で楽しんだ。長靴を履いた男の子が、小川の淵に両足をふんばり仁王立ちになって、流れてくる実を網ですくって喜んで回収を手伝ってくれた。

「花はよく見るが種までは気をつけず、気がつかなかった事や知らなかった話が聞けて良かった」「散布の実験が面白かった」と感想を述べて帰られた。